

大阪市区役所との連携協定調印式理事長挨拶（6月24日）

皆様、こんにちは、大阪市立大学理事長の西澤です。

本日は、公私とも極めてご多忙のところ、高橋大阪市住之江区長、吉田大阪市住吉区長、臣永（とみなが）大阪市西成区長にご臨席を賜り、ここに厳粛に連携協定調印式が挙行できますことに対しまして、心からお礼申し上げますとともに一言ご挨拶を述べさせていただきます。

大阪市立大学は、「大学は都市とともにあり」「都市は大学とともにある」を開校以来の理念として、都市を学問創造の場ととらえ、都市の諸問題に英知を結集して正面から取り組む。教育及び研究の成果を都市と市民に還元し、地域社会及び国際社会の発展に寄与する。また、市民とともに、都市の文化、経済、産業、医療などの諸機能の向上を図り、真の豊かさの実現を目指すこととしています。

この理念のもと、本学と住之江区、住吉区、西成区とは、これまでも研究や教育・学術に関わる様々な取り組みを連携し進めて参りました。これには、多方面で本学の教員が各区の地域をフィールドとして連携を図り、また各区の委員等でも関わっておりますこと、本学の学生も教育・研究活動の一環として参画、さらに、いくつかのクラブサークルが主体となって地域のイベントへの参加を行ってきたという背景もあります。

特に都市防災研究において、本学では平成23年3月11日の東日本大震災をうけて、直ちに被災地への支援を専門分野横断組織で取り組んできました。その後、東日本大震災で得た知見を社会や地域に還元するため、住民・行政と連携した「いのちを守る都市づくり」プロジェクトを開始しました。

この3区につきましては昨年夏より、この「いのちを守る都市づくり」プロジェクトによる連携を進め、協力体制を育んでまいりました。このような経過からも、本日の連携協定調印式を結ぶ運びとなっています

本学と隣接する3区それぞれにおける地域特性と、その災害リスクが対照的なものとなっており、災害時には各区ともに十分に連携を図り、対応に当たる必要があることから、この間、地元の住吉区に限定せずに、この3区の地域防災に貢献できるよう、防災連携を図ってきたところです。

これからは、都市防災研究プロジェクトでの研究・実績を各区へと更に展開していき、各区における地域リスクの分析、地域防災体制の評価・改善、防災のための人材育成などが重要になるかと思えます。

このような流れの中、本学では本年 2 月 1 日に教育・研究と並んで大学の重要な使命である「社会貢献」の役割を総合的かつ組織的に遂行するために「地域連携センター」を開設いたしました。

「地域連携センター」は都市大阪のシンクタンクをめざし、都市課題や地域のニーズに応える拠点として、本学の知的財産・教育力・学生力・研究成果などの学内資源と、地域・社会・企業・高校等との連携をより深め、つないでいく役割を果たします。

この地域連携センターを窓口として、各区役所との連携をより強固なものとし、組織的に取り組んでいきたいと考えています。

今後、連携協定の締結を通して、本学と住之江区、住吉区、西成区との連携をより一層発展させ、各区役所は地域のまちづくりを行う拠点として更なる活力ある地域づくりを、大学は教育・学術研究を通じて地域社会において重要な役割と責任を果たすこと、また学生教育にも力になることを願ひまして、開会の挨拶とさせていただきます。

よろしく申し上げます。